

12月6日(土)羽島市文化センターにおいて今年度の岐阜県スポーツ推進委員研究大会が開催されました。初めに表彰式が行われ我々の仲間5人の功労が認められました。おめでとうございます



続いて山田幸彦氏他4名による「いかにして、メダリストが生まれたか。」という演題でパネルディスカッション形式で講演がありました。まだ記憶に新しいソチオリンピックの銅メダリスト平岡卓選手が小学校1年生でスノーボードを初めてから色々な人に支えられてきた軌跡を聞くことができました。

後半は2つの分科会が行われ、その1つが白川村の発表でした。いつもどことなく堅苦しい分科会なのですが我々の仲間である川合氏の名司会振りにより会は進行されました。白川村は人口が1700人いわゆる少年人口が14%と低く、高齢化率が30%と高いのが特徴で地域でそれぞれがふれあう活動も少なかったが『ふれあいの場』をテーマにだからこそできる(DKD)アクションを起こし、誰とでもできる、道具を使った軽スポーツ、自然を生かした遊び、これにより村民どおしの「人との関わり」が増えて体を動かす楽しさを感じることができたようでした。

大会当日、白川村は雪にみまわれたそうで、会場入りが遅れました。冬場の雪が枷になるのなら逆手にとり、雪合戦、かまくらづくりなど村内外問わず体験、大会を開催したらいいなあと思いました。講演のパネラーの方も言っていますが、奈良県出身の平岡卓選手は、『岐阜には雪があり素晴らしい環境だ』と話していたそうです。

身近過ぎてあまり実感はないかもしれませんが、素晴らしい岐阜県、瑞穂市の特徴を生かしてこれからも頑張って活動していきたいと思えます

